

消防団 ネット in 川口

KAWAGUCHI SHOUBOUDAN NEWS

平成 29 年 9 月 30 日

第 52 号

発行者 川口市消防団活性化対策推進本部

消防団長 金子 利夫

発行所 川口市消防局消防総務課消防団事務局

電話 048-261-8102

支団紹介

7 支団の紹介です

第 7 支団 支団長 藤波 幸夫

第 7 支団は、神根地区を受け持ち、車両 4 台で広域に活動しております。第二出場が入るとより広範囲と成り、川口市の北半分近くに活動範囲が広がり、団員全員で対応しています。

第 7 支団は来年「第 30 回埼玉県ポンプ車操法大会」に向け、今年 6 月から少しずつですが訓練を始めました。来年のポンプ車操法大会に向け、良い成績を残せる様に第七支団の団員全員で頑張っていきたいと思っております。



第 7 支団 第 1 分団 分団長 矢作 安三

第 1 分団は、根岸地区及び神根西地区で、特別点検を行う神根運動場がある地区を受け持ち区域としています。

団員は 15 名の精鋭で、地元各町会の夏祭り等には交流を図り、地域防災活動に貢献出来る様、取り組んでいます。団員の団結を大事にしていて、月一回の定例会・年一回の研修親睦旅行等コミュニケーションをとっています。会社員が増え、全員参加が難しくなりましたが、SNS を活用してこれからも続けていきたいと思っております。

異常気象による自然災害が関東近隣でも発生する様になりました。緊張感を持って訓練に励みます。



第 7 支団第 2 分団 分団長 三浦 更



第 7 支団第 2 分団は、神根地区内のうち石神・赤芝新田・赤山・大字源左エ門・木曾呂地区を主に受持地域として活動しています。現在、藤波 幸夫支団長の他、団員 12 名の団員人数です。

団員 12 名の内 20 年以上在籍の団員が 6 名と 20 年未満の団員が 6 名で一致団結して活動していますが、新消防団員の入団・増員に取り組んでいます。

車庫は、老朽化した以前の木造2階建の車庫から平成6年3月に新しくなりました。鉄骨造 ALC 板張り2階建の車庫で、2階に会議が出来る和室が二間続きで有ります。トイレは1・2階に有ります。車庫正面駐車場に、耐震性貯水槽が1基埋設されています。現在までに、近隣の建物火災の時に利用した事が有ります。また、この貯水槽の水を利用しての水出し訓練及び放水訓練を実施し、ホース使用後の清掃作業を全団員で行い乾燥・二重巻きホース収納まで行い、火災時に備えています。平常時は、火災予防活動や神峰地区連合町会主催の防災訓練に参加しています。他にも団員としての団体行動、消火活動の操法、普通救命講習等を経験して知識技能の修得・向上を目指して日々努力しています。

第7支団第3分団 分団長 高橋 勝

第三分団は、埼玉高速鉄道の新井宿駅出口付近にあります。西に国道122号、医療センターがあり、有事の際には情報基地としての役目も果たさなくてはならないと思います。車庫は地域との共有となっており、申請があればどなたでも利用できます。地域とのコミュニケーションを計り、安全を守りたいと思います。



第7支団第4分団 分団長 櫻井 幸夫

第4分団は、神根地区北部五町会を担当しています。今年1名の新入団員がいましたが、総勢7名と勧誘活動には苦戦しています。年1度の旅行や食事会を行ったりと、強い仲間意識で諸活動に取り組んでいます。

第30回埼玉県ポンプ車操法大会 第7支団選手激励会

第7支団第2分団 団員 田口 明文

去る8月19日(土)に川口市安行に御座います「割烹 かねこ」様にて来年8月に行われます「第30回埼玉県ポンプ車操法大会」の選手激励会が催されました。

川口市消防団本部幹部の皆様、川口市消防局からご担当の皆様、第7支団OBの皆様、選手、そしてそれを支える団員各位を含めまして総勢60名強の参加者があり、盛大な会となりました。

今回第7支団から選手が選抜されるのは、実に30年振りとの事。それ故、OBの皆様はじめ嫌がおうにも気合いが入ります。



それでは、この紙面を借りて選手を紹介させていただきます。

- 7-1 浅見 勇部長、矢作 泰教団員、塩野 孝夫団員。
- 7-2 高橋 誠団員、清水 智之団員。
- 7-3 高橋 伸幸部長、長瀬 誠団員、野田 裕貴団員。
- 7-4 森 信二班長、早船 健一団員。

以上の10名で御座います。

既に6月から訓練を開始しており、来年8月の本番に向け、この10名から5名に選抜して大会に出場致します。川口市を代表しての参加となります。皆様からも、是非熱いエールをお願い致します。



第1支団放水訓練

第1支団第1分団 班長 井口直也

去る7月30日に荒川リバーサイドステーションにおいて第1支団の自然水利による放水訓練を実施しました。今回は全団員に自然水利による給水、ポンプ操作を実地体験してもらいました。その後、当日選抜されたメンバーによる効果測定試験を行い幹部による採点も行いました。

幸いにも全員なんとか合格。日ごろ積み重ねてきた訓練の成果が出たようです。

訓練のあとは恒例の第1支団の暑気払いです。今回はしゃぶしゃぶ・寿司食べ放題・飲み放題のお店でした。



富士火力総合演習

第1支団第1分団 班長 井口直也

去る8月26日に第1支団の有志達総勢23名で陸上自衛隊の富士火力総合演習を視察してきました。この演習はなかなかチケットが入手出来ない超レアな見学会ですが、運よく多数のチケットが手配出来て幸運でした。我々が行ったのは本番の一日前の自衛隊関係者および家族・OBの公開日でしたがほぼ満席状態でした。実弾の演習は初めて体験しましたが、迫力が違います。砲撃の振動が半端なく凄かったです。今回素晴らしい企画をしていただいた幹事の皆様に感謝いたします。



恒例のたたら祭りが、今年も 8 月 5 日～6 日の土日で開催されました。九州では台風が猛威を振るう中、川口では最後の花火まで崩れることはありませんでした。消防職員と団長・副団長及び支団長で構成される警戒本部に加え、今年の警戒員担当支団は、土曜日の第 3 支団と第 11 支団、日曜日は第 1 支団と第 2 支団です。レース場施設 2 階に置かれた警戒本部と共に設置された第一警戒所には職員と団員が警戒班として待機します。夏真っ只中、暑いのは当たり前と言わんばかりに西門側に設置された炎天下のテント、第 2 警戒所には、現地待機救急隊と共に現地待機班として、それぞれ担当の団員が任務に着きました。10 時～20 時(日曜は 21 時)までの長時間を 2 交代制で担当しました。特に第 2 警戒所に待機した団の消防車と救急車には、興味津々の子供たちが(恐る恐る?)近寄ってきます。お祭りの和やかなムードの中、幼い子供たちを消防車の運転席に乗せたり、筒先を持って鍔の付いたヘルメットを被って写真を撮ったりすると「わ～カッコイイ」と言って、子供たちもお母さんも大喜びでした。市民とのふれあいを感じつつも、今年も大きな事故やアクシデントもなく、無事任務を終えることができました。



みんな知ってる？

第 11 支団第 3 分団 部長 加藤耕誠

「ドイツの消防団(義勇消防)とは？」～ヨーロッパの緊急通報番号「112」～
 私は近年夏になると、バイクツーリングでヨーロッパを走っています。今年も 3 週間かけて、アルプスの山々やライン川・ドナウ川などに沿って駆け巡りました。ツアーではなく完全な個人のため、ミュンヘンやシュトゥットガルトなどドイツの大都市でバイクをレンタルしてから荷物を積み、南チロールなどの田舎に移動するわけですが、そこはどこも大自然に溶け込んだ、教会を中心に美しい街並みが広がります。そこでやはり気になるのが、この古き良き、石と木でできた建物の町の消防事情。ワインディングで峠を越え、遠くに教会の鐘と小さな集落が見えて来ると、やがて速度制限の標識、そして町の入口には必ずと言っていいほど消防署があります。さてこの消防署や消防車には「112」と書いてあります。少なくとも私が巡り確認した、オーストリア～フランス～イタリア～スイス～ドイツそしてベルギーはそうでした。EU で国境は緩いものの、言語は国によって変わります。ちょうどバイクで通り過ぎた、とあるオーストリアの田舎町、大きいスキー場が広がる高原では、1920 年代からのクラシック消防車が近国からも集結して、フェスタが開かれていました。



ベルギーのクラシックポンプ車



ベルギーのクラシック消防車

この鈍くてもったりとした消防車たちがパレードをすると、排ガスでゲホゲホするほど、町中が煙に包まれていました。中にはポルシェのトラクターに牽かれたポンプなどもあります。短い夏を楽しむアルプスの、なんともものどかな風景です。そしていつも、私たちに同行してガイドを務めてくれるのは、シュトゥットガルト警察の現役ポリスパイク隊長(ドイツではある年齢から、休暇中の公務員のアルバイトを認めています)愛称フプシィ。そこで夕食時に地ビールを飲みながら、苦手な英語とカタコトのドイツ語で、小さい農村や集落の多い、ヨーロッパの消防事情を聴いてみました。まず、警察も消防も救急も緊急番号は「1 1 2」。ヨーロッパの多くはこの番号が使われています。ただドイツは警察のみ日本と同じ「1 1 0」も使えます。またオーストリアの場合だと、総合的に「1 1 2」ですが、消防「1 2 2」警察「1 3 3」救急「1 4 4」と細かくも分かれています。



ドイツの消火栓



フランスの消火栓

ドイツの消防組織はどうか? 尋ねてみます。大都市は当然、公務員中心の常備消防があるものの、多くの小さい農村集落が点在するドイツは、州の内務省が管理を行い、我々消防団の組織に似た「ボランティア消防隊(義勇消防)」がその職務を担います。火災消火や災害救助はもちろん、救急搬送までも行い、装備は常備消防と変わらないものの、完全無報酬だそうです。公務員の身分がかなり保障されているドイツにおいて、常備消防(ドイツ全土で 100 部隊余り 3 万人弱程度)と義勇消防(消防団)の業務に大きな違いはありません。ドイツ全土の義勇消防隊員は 100 万人を優に超えます。これが行政の財政負担を大きく軽減しているようです。ドイツや EU 諸国と日本、消防団員の事情や処遇は違うものの、このボランティア精神は、置き換えれば、義務ではなく使命感を持った形で、行政にとって一番大切な、沢山の納税をしていることになります。フプシィ隊長に案内されて、ポルシェとベンツの町シュトゥットガルトの警察本部を案内してもらいました。当然のようにパトカーは、国産車のポルシェにベンツです。BMW のボクサーツインエンジン R1200RT のポリスパイク(ドイツは青バイですね)に跨ってはしゃいでしまいました。さすがドイツと言った感じです。

ちなみに、ヨーロッパで緊急車両の回転灯は、パトカーも消防車も基本青! フプシィ曰く、赤が危険信号色なのは同じ認識、赤は視認性が高いものの、車のテールランプと誤認しないために青という説。日本で青は自主防犯車両などになります。時々高速で青く回転しながら走る、とあるアメリカンバイクを見かけますが、何色であれ、あくまで県や警察の許可を得た車両以外を公道で点灯させると、道交法違反となりますのでご注意ください。



新入団員紹介

新入団員の皆様を順次紹介しています

第7支団第3分団 横山 淳之 (よこやま あつし)



地域の方からお誘い頂き、また私自身何か地域に役立つ事は出来ないかと考えていたところでしたので入団を決めました。防災に関心が高まるなか、そして身近に起こる火災に対して地域を守る消防団はとても重要な存在であると思います。その消防団でどれだけお役に立てるか正直分かりませんが、一日一日色々な事を指導して頂きながら消防団として成長していければと思います。これからも一生懸命努力して、地域に貢献出来る様に頑張ります。

第7支団第3分団 長瀬 祐一 (ながせ ゆういち)

平成29年4月1日 第七支団 3分団に入団しました。

震災や災害以降、自分自身の意識が変わり、身近に起こる災害や危機等で自分自身が家族はもちろん、地域の方の手助けが出来るようにと思い、消防団に入団しようと決断致しました。夜遅く、土日仕事になる事が多々有り、なかなか参加出来ない状況が続いています。ただ、限られた時間では御座いますが、少しでも早く一つ一つの手順や、作業などを覚え、消防団の一員として、現場で活躍出来るよう、一層努力していこうと思っています。これからも宜しくお願い致します。



第7支団第4分団 横山 敦史 (よこやま あつし)

私が消防団入団を決意した理由には、東日本大震災という災害が大きく関わっております。以前よりボランティア活動や人の助けになる活動に興味があり、大学有志のボランティア活動に参加し、東日本大震災で大きな被害にあった岩手県陸前高田市へ訪れました。



被災した方々のお話を聞いていると、多くの方が地元の消防団に助けてもらったと口を揃えて言っていました。私は直ぐさま自分の状況と置き換えてみました。実際に東日本大震災が起きた時自分は何も出来ませんでした。このままでは実際に災害が起きた時、また自分の愛する地元が火災に襲われた時に何も出来ず見ているだけになってしまう。そうならない為にも自分から率先してアクションを起こし、有り余る体力を役立てるために入団致しました。名誉ある消防団に入団したからには、積極的に消防団活動に貢献していきたいと思っています。

【編集後記】

第8支団第2分団 団員 中田淳夫

団ネットいかがでしたでしょうか？皆様のご協力のもと、無事に第52号を発行することが出来ました。同じ川口市内でも、支団ごとの活動の様子に地域性が出ているかと思えます。ご意見ご感想ございましたら、各支団の広報委員にお気軽にお声がけください。年末に向けて、消防団の行事や訓練が増えますが、健康、怪我に注意して頑張ってくださいませ。

次号は12月下旬 発行予定です

